

調査問題の内容

学習指導要領に示されている各領域に基づき、スピーチで、どのような構成で話しているか、適切なものを選択する問題、資料を読み、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付け、面ファスナーのくつつく仕組みを書く問題、自分の考えが伝わるように、反対する理由を明確にして、文章の下書きの傍線部を詳しく書き直す問題、文章の下書きの中の傍線部について漢字を使って書き直す問題などが出題されています。

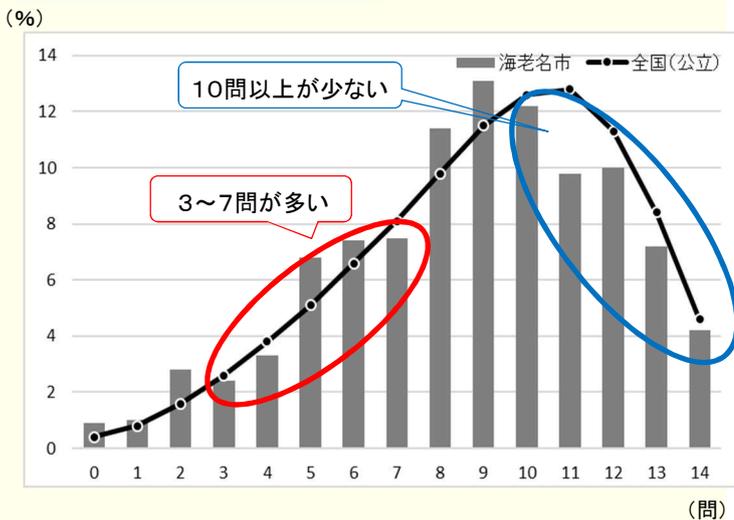
全体の結果

	海老名市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との比較
平均正答率	62.1%	63.0%	64.7%	-2.6
平均正答数	8.7問 /14問	8.8問/14問	9.1問 /14問	-0.4

平均正答率…平均正答数を問題数で割った値の百分率。

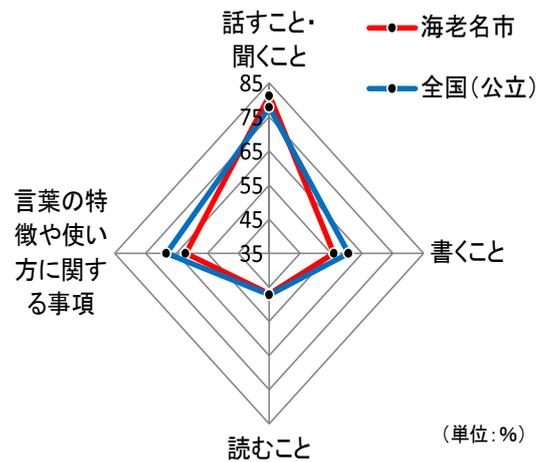
正答数分布グラフ

(横軸:正答数, 縦軸:割合)



- * 正答率 50%以下(0~7問)の児童の割合は 32.1%です。【全国は 29.0%】
 - * 正答率 80%以上(12~14問)の児童の割合は 21.4%です。【全国は 24.3%】
 - * 中央値は9問です。【全国は9問】
- 中央値…正答数を大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。

学習指導要領の領域等の平均正答率



- * 「話すこと・聞くこと」の領域では、全国と比較して上回っています。
- * 「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、全国と比較して大きく下回っています。

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数	平均正答率 (%)			平均無解答率 (%)		
			海老名市	全国(公立)	全国との比較	海老名市	全国(公立)	全国との比較
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3問	81.2	77.8	3.4	0.6	0.4	0.2
	書くこと	2問	55.9	60.7	-4.8	12.1	5.9	6.2
	読むこと	3問	47.0	47.2	-0.2	3.8	3.3	0.5
	言葉の特徴や使い方に関する事項	6問	62.1	68.3	-6.2	12.1	6.3	5.8
問題形式	選択式	8問	71.5	71.7	-0.2	3.8	1.5	2.3
	短答式	3問	63.6	70.6	-7.0	16.7	9.9	6.8
	記述式	3問	35.4	40.2	-4.8	9.7	6.4	3.3

海老名市の結果についての分析

- 平均正答率、平均正答数を見ると、全国と比べて正答率が低い児童がやや多いです。
- 平均正答率が全国を上回った問題は、14問中6問でした。また、平均正答率が80%以上の問題は、14問中4問(全国は3問)です。
- 問題形式から見ると、「短答式」「記述式」の問題は全6問とも全国の平均正答率を下回っています。
- すべての問題において無解答率が全国よりも高く、特に、問題の終盤に高くなる(無回答率10%以上)傾向がみられます。

全国の正答率と差が見られた問題の例

小学校国語のすべての問題は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

- (条件)
- 「そうじたん当の人などがたづねればよい」という考えに反対する意見と、その理由を書くこと。
 - 「西田さんの話」から言葉や文を取り上げて書くこと。
 - 六十字以上、百字以内で書くこと。

毎日、そうじ担当が掃き掃除して遊具をかたづけしています。でも、そのために時間が足りなくなってしまう、はきそうじやふきそうじまで手が回らなくなることがあります。そんなときは、きれいにそうじができなくて困ります。



西田さん

「西田さんの話」(遊具置き場のそうじ担当)

二丸山さんは、――部の「そうじたん当の人などがたづねればよい」と考える人を説明するために、「西田さんの話」を用いて「文章の下書き」の……部をくわしく書き直そうとしています。あとの条件に合わせて書き直しましょう。

3 【文章の下書き】の____部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す。

趣旨 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。

正答は省略

◇この問題の正答率

海老名市	45.5%
全国(公立)	56.6%
(全国との比較)	-11.1)

考察

- 文章を要約することはできるが、図の言葉や文を取り上げて要約したり、複数の条件を満たすように要約したりすることに課題が見られ、指導の工夫が求められます。
- 自分の意見をもつだけで終わり、反対の立場の意見を考えることや、他人の意見を参考に自分の意見を構築することに課題が見られ、より説得力のある書く力を高めるための指導の工夫が求められます。
- 主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係をとらえることに課題が見られ、文の構成を意識した指導の工夫が求められます。

指導の改善にむけて

◆書くことの力を高めるために

- 引用したり、客観的資料を用いたりして説得力のある文章の書き方を指導します。国語科で学んだことを、他教科の中で取り組む調べ学習に生かし、児童が繰り返し活用できるように指導します。

◆正しい表現ができるようにするために

- 教師が黒板などに示す文は、主語、述語を正しく書き表します。作文や日記など、活用場面で具体的に指導します。